

成果の説明書

(氏名) 黒川基裕	(学部) 地域政策学部
1 重要事項	
1.1. 研究成果	
<p>2年目にあたる日本学術振興会・科学研究費・基盤研究(C)「東南アジア地域におけるデザインのローカライズ研究—嗜好の相違と日系企業の対応」に関しては、引き続き国別の消費者行動の分析を推進した。昨年までにミャンマー、ラオス、ベトナムでのデータ収集を進めたが、今年度は、タイ、インドネシアでも同様のデータを収集し、分析の比較可能性を高めることができた。</p> <p>途上国の産業デザイン人材に関する研究では、ミャンマーのデザイン人材育成に関する情報収集を進めた。ミャンマーでは、主に2つの国立大学と2つの高等専門学校でのみアート人材、デザイン人材が育成されており、非常に層が薄い。今後の産業界からの需要増を考えると対応が求められる状況にある。この点について、同国のアート界の中心的人物へヒアリング、また現在は人材育成のトップ校と考えられる Yangon Technological University の建築学科、National University of Art and Culture, Yangon への訪問、ヒアリングを実施した。今後、さらに関係構築を進め、共同研究やプロジェクトを実現させていく素地ができた。</p> <p>デザイン研究に関する本年度の研究成果は、2019年度の IFEAMA 京都大会(6月19日)、SOltnC 名古屋大会(6月29日)、ICAS11 ライデン大会(7月16日)の3学会において一部公表される予定である。</p> <p>2016年よりガーナでの基礎調査を契機として推進してきたアフリカ地域の研究については、2019年3月にガーナ(ガーナ大学、IMANI)、スーダン(ハルツーム大学、SBEF)およびウガンダ(財務省、UMA)において合計6回のセミナーを開催し、ガーナ以外の2カ国においても各国キーパーソンとの関係構築を進めることができた。また、同セミナーでレビューした「アジアの開発経験」についても、今後論文として取りまとめる。</p>	
1.2. 社会貢献	
<p>研究室として継続して取り組んでいる BOP ビジネスの商品企画・開発では、昨年からの進展が著しい無煙クッキングストーブについて、山崎製作所との共同研究体制下での製品開発とミャンマーでの現地調査を推進することができた。現地調査では、昨年からの実施していた消費者使用テストに加えてテストマーケティングを実施することができた。調査結果の一部は、「BOP プロダクトの新しい商品企画・開発方法」として整理され、11月の国際学会にて下記の通り報告された。</p> <p>Motohiro Kurokawa and Khin Sandar Thein (2018) “Product Planning Methods for BOP, Introduction to Smokeless Cooking Stove in Rural Myanmar” The 18th Science Council of Asia Conference, Tokyo</p>	

その他、現在ミャンマーへの導入可能性を検討している一方で、アフリカ地域への適応可能性を検討するため、ガーナにおける聞き取り調査、アフリカ地域で **Circular Economy** やアグロインダストリー支援を展開する国連工業開発機関 (UNIDO) へのヒアリング調査を実施した。

1.3. 教育

演習で活用できる教材の開発を進めた。黒川研究室では、途上国でも活躍できる商品企画人材・デザイン人材の育成を目標としているが、昨年から導入した折り紙による **VE** 教育を再度導入した。また、品質管理研修も導入し、エンジニアリングへの関心を向上できるようにした。

また、プロジェクトを通して試作品の重要性を共有し、実験用のホットモックに限らず、企画段階でのコールドモックの製作を盛んにした。

2 その他の事項

昨年度に引き続き、学内委員として広報室委員を担当した。

3 次年度以降の計画・抱負

ローカライズ研究の科研費プロジェクトが最終年度にあたるため、積極的に研究成果を取りまとめていきたい。また、2020年度の構想を明確にするため、4カ国に渡るコラボレータとの意見交換を活発にする。